



朱雀の翼

のびる学校 つながる学校 元気がでる学校

5月のテーマは

たいわ 対話

新緑がまぶしい季節となりました。新年度が始まって一か月。少しずつ新しい学級や仲間にも慣れ、それぞれの活動が本格的に動き始めています。

さて、6月6日(土)には第55回運動会を予定しています。運動会に向けて、学級や学年、係活動などで「相談する」「話し合う」「協力する」場面が増えてきています。どのように競技に取り組むのか、どんな工夫が必要か、役割分担をどうするのか。

1人では決められないことを、みんなと一緒に考え、形にしていく大切な時期です。5月のテーマである「対話」を意識してコミュニケーションをとることはできましたか。

「対話」とは、ただ言葉を交わすことではありません。相手の話を聞き、自分の考えや気持ちを伝え、お互いを理解しようとするのが大切です。時には、意見が違うこともあります。しかし、違いがあるからこそ、新しい考えや工夫が生まれます。「うまく話せないから…」「自分の考えを言うのが苦手だから…」と感じる人もいるかもしれません。しかし、コミュニケーションは特別な才能ではなく、少しずつ練習して身に付けていく力です。

そこで、コミュニケーションが苦手だと感じる人へ、「5つのアドバイス」を紹介します。

① 相手の話を最後まで聞く

まずは「聞くこと」を大切にしましょう。うなずいたり、「なるほど」と反応したりするだけでも、相手は安心します。すると、人間関係もより深まることでしょう。

② 短い言葉でもよいので伝えてみる

長く上手に話そうとしなくてもいいのです。「私はこちら思う」「ありがとう」「手伝おうか」など、一言、短い言葉で話すことから始めてみましょう。



③ 相手の目を見て話す

ずっと見続けたり、じっと見ていたりしなくても構いません。話し始めるときに少し目を合わせるだけで、気持ちは伝わりやすくなります。

④ 「違っていい、大丈夫」と考える

みんなが同じ考えである必要はありません。また、無理に同じ意見にならなくてもいいのです。「そういう考え方もあるのだな」と受け入れたり、違う意見を認め合ったりすることで、よりよいアイデアが生まれます。

⑤ 自分から働きかけるコミュニケーションの第一歩は、あいさつ

「おはようございます」「ありがとう」が自然に言える人は、周りとの関係も温かくなります。

4月に講師のマッチ先生をお招きして「ペップトーク」について学びました。

前向きな言葉は、自分にも周りにも元気を与えます。「できる!」「大丈夫!」「やってみよう!」という言葉には、人を動かす力があります。

毎日の生活の中で、相手を元気づける言葉、自分を励ます言葉を大切にしながら、「すてき」を1つずつ増やしていきましょう。

運動会に向けて、みなさんの1人1人の「対話力」と「思いやり」が発揮できることを期待しています。

みんなが居心地が良い、笑顔があふれる学校生活にしていきたいと思います。

おはよう

「あいさつ」は
人とつながる
魔法の言葉

感謝の気持ちを伝えること

このたび、柳沢地区の小学校や中学校、地域の皆さまを長きにわたり支えてくださっていた大切な方が、旅立たれました。児童館館長やおやじの会会長として、また近隣の小学校や本校の花ボランティア講師、健全育成会など、さまざまな場面で子どもたちの健やかな成長を見守り、大きく支えてくださった方です。

亡くなられた方の功績を改めて偲ぶとともに、私たちにできることはなにか考えました。今、私たちの周りには、よく顔を合わせて、支えてくれる人、優しく見守ってくれる人たちがいます。家族、先生、地域の方、お父さんお母さんのお友達や知り合いの人。当たり前のようにそこにいてくれると思うほど、実は「いつまでも一緒にいられる」とは限らないのです。

お世話になった人への感謝の気持ちは、心の中で思うだけでは届きません。「いつもありがとう」「おかげで助かっています」「大好きだよ」

たった一言でも、声に出して伝えることで、その気持ちは相手の心に届いて、温かい灯りがともります。伝えられた相手は、きっと嬉しさと勇気をもらうことでしょう。

感謝の気持ちを伝えたいと思ったその瞬間を逃してしまうと、後で「あの時、言えばよかった」と悔やむこととなります。タイミングがずれてしまわないように、「今」伝えられるうちに、大切な人に素直に「ありがとう」の気持ちを言葉にしてみましょう。

学校や地域で優しくしてくださる方、家族や友達に支えられていることを「当たり前」と思わず、しっかりと「ありがとう」と伝えられる、心豊かな人に育てほしいと願っています。

ご尽力くださった方への深い感謝とともに、私たち1人1人が、「今を大切に生きる」きっかけにしたいです。



2泊3日の旅



3年生は3日間の「広島・厳島神社・京都への旅」から帰ってきました。旅行中、互いに協力し合い、予定を相談し、夜の部屋会議で振り返る姿からいい経験をしていると感じました。

修学旅行の起源は明治時代に遡ります。当初は「修学」という言葉に象徴されるように、知識の獲得が中心でした。しかし時代は大きく変わり、情報が溢れ、スマートフォン1つで世界とつながる今の時代に求められる修学旅行とは、「リアルな経験を通じて、自分と社会を深く知る旅」だと考えます。デジタル社会では得られにくい「現実の感触」を体験する。広島の平和学習は、教科書や映像だけでは伝わらない「戦争の悲惨さと平和の価値」が心に刻まれたことでしょう。厳島神社や京都では、日本人が育んできた美意識や伝統文化に直接接触することができました。これらは、グローバル化が進む中で「日本人として何を大切にするのか」を問う、極めて重要な体験になったと思います。

旅費の高額化は課題ですが、修学旅行は、「社会に出る前の最後の本格的な練習」と位置づけると、限られた予算の中で優先順位を考え、効率的に動き、トラブルが発生したときに冷静に対応するなどの力は、将来の社会自立や危機管理能力につながっていきます。

また、家族と離れて他者と24時間以上を共に過ごす中で育まれる力は、共感力、調整力、責任感です。

1人1人が違う価値観をもつ中で、実践的に学ぶ場は、教室だけでは得られません。誰かのために行動する喜び、一緒に行動する楽しさ、失敗から学ぶこと、そして「チームとして成果を出す」達成感——これらは、AI時代にこそ不可欠な「人間らしさ」の基盤となります。

修学旅行は「イベント」ではなく、中学校における「成長の儀式」です。

本校は今後も、子どもたちの「生きる力」を育む修学旅行を大切にしていまいります。この度も、ご家庭のご理解、ご支援を賜りまして、お礼を申し上げます

職業レディネス・テストを活用した講演会(2年生)

4月に実施したテストの結果を活用して、現在の自分の意識や状態を確認してみました。「自分を知る」ことは将来の自分を描いていく上で大事な参考資料になります。

自分でも気が付かなかった強みがわかったり、興味があることをすることができたことは、新鮮ですね。

